3. 指導の留意点

Q 指導者は、どんなことに一番気をつけたらいいのかな?





A 子どもがたくさん話すように授業を進めることが大切! 指導者が一方的に話す時間を減らすことがポイントだよ。

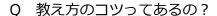
Q 子どもが指導中に飽きないようにするには、どうすればいいのかな?





A レアリア (実物) をたくさん使って、「体験できる」活動をたくさん 行うといいよ。

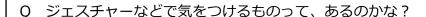
あと、同じ活動を長くしないことも大切ね。10分くらいが目安よ。







A 「やさしい日本語」でのコミュニケーションを心がけてね。 (p.9 参照)







A それぞれの国の文化や慣習によって、気をつけるジェスチャーが違うよ。

たとえば首を横に振る動作は、日本では「いいえ」を意味するけど、インドなどでは「はい」「わかりました」の意味になるよ。 あらかじめ調べておくことが大切ね。(p.9 参照)

やさしい日本語のコツ

- (1) 1つの文を短く言う。
- <例> 昨日言ったように、今週の土曜日、雨が降ったら、運動会は中止になるから…。
- ⇒ 昨日、みなさんに言いました。もう一度言います。 今週の土曜日、雨のときは、運動会はありません。
- (2) はっきり最後まで言う(省略しない・曖昧な表現は避ける)。
- <例> そんなことしたら、危ないと思わない?
 - ⇒ 危ないです。やめてください。
- (3) できるだけ「です・ます」を使う。
- <例> 体育の授業は、体操服がいるもんで着替えやなあかんのさ。
 - ⇒ 体育の授業は、体操服を着ます。
- (4) オノマトペ(擬音語・擬態語)は使わない。
- <例> 雨がザーザー降りになってきたから、サッと中へ入りましょう。
 - ⇒ 雨がたくさん降ってきました。すぐに中へ入りましょう。
- (5) 敬語は使わない。
- <例> 本日は、こちらにご参加をいただき、心より御礼申し上げます。
 - ⇒ 今日はここに来てくれて、ありがとうございます。

気をつけるべきジェスチャーの例

- (1) 頭をなでて、褒める。
 - ⇒ タイ・スリランカなどの仏教の国では、頭をなでるのは失礼にあたります。
- (2)「お金」の意味として、人差し指と親指で輪を作る。
 - ⇒ 中南米では、「タブー」とされています。
- (3)首を横に振る
 - ⇒ スリランカ、バングラデシュ、インドでは、「はい」「わかります」の意味です。
- ◇子どもがつながりを持つ国の文化や慣習について、あらかじめ調べておきましょう。